

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和2年2月14日

事業所名:児童デイサービスセンターおひさま 保護者等数(児童数)25家庭 回収数 20家庭 割合80 %

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	2			・もう少し広いとより良いかなとは思いますが。	利用人数、子どもの状況に合わせたグループ編成を行うようになっています。また、新設の際に検討したいと思います。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19	1			・専門職の先生の月の参加回数を増やして欲しい。	配置基準は10:2ですが、おひさまでは10:4で職員配置を出来るようにしています。また、各専門職の先生に月1回参加して頂いていますが、対象曜日でない場合でも参加が出来るようにしていきたいと思っています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	13	7			・トイレが子どもに使いにくそうに感じる。 ・トイレを子ども用のものに変えられないか。 ・トイレ前の段差が障害の有無に関係なく危ないと感じることがある。 ・トイレが狭すぎる。1つでは不十分ではないか。	設備が不十分なところがありますが、出来る部分として心のバリアフリーを考え配慮するようにしています。また、新設の際に検討したいと思います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17	3			・トイレを増設して欲しい。 ・ゴミ箱自体も触ったりするので清潔に保たれると良いかと思えます。	活動終了後、清掃を行っていますが、今後も徹底していきたいと思えます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	20				・児童発達支援計画を職員は、利用している子どもたち1人1人の把握をしているのか。	個別支援計画に基づき支援を行っています。今後も活動前の打ち合わせの際に個別支援計画の確認も行うようにしていきたいと思えます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18	1		1		懇談会等を通して周知しています。新規の契約時にも説明ができるようにしています。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20					作成、面談が遅れることはありますが、その都度見直し定期的に行えるようにしています。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	19	1			・音楽は子どもたちが楽しめることの1つだと思うので、「音楽療法」を取り入れて欲しい。	月の計画で活動内容が固定化されないようにしています。通園の活動の際の活動内容は固定化されないよう検討していきたいと思えます。

	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	13	2	3	2		散歩等戸外遊びを通して、他園との交流、地域の方との交流が持てるようにしています。
	10	幼稚園・保育園・認定こども園とおひさまの連携が取れているか	16	3			1	・連絡会の内容を教えてもらえてありがたい。 年2回連絡会を行い、連携を図るようにしています。今後も連携を図り、よりよい園生活が送れるよう支援計画を立てていきたいと思っています。
保護者への説明等	11	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20					契約時に説明を行っています。
	12	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	20					個別面談や日々の活動の振り返り等を通して伝えるようにしています。
	13	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	14	3	1	2		基本家族通園で活動し、年4回の懇談会を通して講師を招いての勉強会や年2回の療育相談の実施、活動終了後に振り返りの時間を設ける事がおひさまとしてのペアレント・トレーニングと考えています。
	14	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	19	1				よく話を聞いて頂けて安心する。 活動終了後の振り返りや個別に話をする時間を設けています。
	15	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	1			1	計画書を元に支援されているが、面談は期日が来たら期日にしてほしい。 家族通園の為、活動の際に各家庭と話す時間を大切にしています。面談日程は調整を早めに行えるようにしていきたいと思っています。
	16	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	15	4			1	・分離の活動の間、保護者は別室で待っていますが、そこに先生(保育士・心理士等)が入る日を作って欲しい。 ・懇談会以外に保護者の集まりが何かあれば良いなと思います。 父母の会は設立していませんが、分離や懇談会を通して保護者同士のコミュニケーションが図れるよう心掛けています。必要に応じ職員が入る事もできるので声を掛けて頂ければと思います。
	17	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18	2				・相談に熱心に乗って頂き大変ありがたいと思っています。時々相談したことの結果どうしていくかということの返答が返ってこない時があるので気になります。 活動前に打ち合わせ、活動終了後に振り返りの時間を設け、共通認識のもと支援が行えるようにしていきます。よりよい支援に繋がるよう、情報提供を行い、関係機関との連携を大切にしていきたいと思っています。
	18	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19	1				活動前に打ち合わせ、活動終了後に振り返りの時間を設け、共通認識のもと支援が行えるようにしています。
	19	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19	1				・期日を決めて、決められた日にはホームページに会報をアップして欲しい。いつもバラバラである。 おたよりは毎月25日まではホームページにアップできるように心掛けています。

	20	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	20				取扱いには十分注意を払っています。
非常時等の対応	21	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	18	1		1	掲示等を通して周知しています。
	22	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	19	1			・訓練が実施されているか分かりません。 隔月、避難訓練を実施しています。訓練を実施した際は、振り返り等でもお伝え出来るようにしていきたいと思っています。
満足度	23	子どもは通所を楽しみにしているか	17	3			・その日の気分によって、母子分離に不安な様子を見せる。 子どもたちが「楽しい」と思えるような活動を心掛けています。
	24	事業所の支援に満足しているか	18	2			・年齢が上がると室内遊びだけでは物足りなく発散も不十分になってくのではないかと。もう少し外に出る日を増やすことはできないでしょうか。 今後も保護者からの意見を懇談会や日々の活動を通して伺い、活動に活かしていきたいと思っています。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月14日

事業所名 児童デイサービスセンターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数が多い際に、更衣室が込み合うことが時折ある為、順番等工夫しています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		定期的に専門職の先生に来て頂いています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	幼稚園・保育園・認定こども園により近い環境を提供することで、スムーズに就園に移行できるようにしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		トイレの数が少ない為、込み合わないよう、順番等工夫しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の振り返りや月1回の会議を通して見直しを行っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今後も、年1回継続して自己評価を行い、業務改善に繋がります。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		昨年度より自己評価の実施を行い、HPIにて公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		常に外部研修や内部研修に参加できるようにしています。専門職の先生からの意見も取り入れながら学ぶ機会を設けています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			作成、面談が遅れることもありますが、その都度見直し、定期的に行えるようにしています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SDQを活用し、アセスメントを行っています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援管理責任者を中心に検討会議を行い作成しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画を全職員が確認を行い、共通認識の元、支援ができるようにしています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		案を元に参加スタッフ全員で行っています。また、専門職の先生方にも相談し活動を考えています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事等も取り入れながら、月の計画が固定化されないようにしています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ケースカンファレンスを行い、共通理解の元対応できるようにしています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動終了後に保護者との振り返りを行い、その後スタッフ間でも振り返りを行っています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人記録、全体記録をとっています。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			日頃、保護者と会話の中で行っているが、定期的に来ていないケースもある為、見直していきたい。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との会議を通して、連携が図れる体制を作っています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		年2回の幼保連絡会を行い連携を図っています。必要に応じて電話でも連携を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援シートと併せて、就学先が決定した後、連絡会を行い連携を図っています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		外部研修や公開療育等を通して連携を図っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		同法人の保育園の園庭を利用した活動や行事を行っています。3歳以上の子どもは全員幼稚園、認定こども園、保育園に就園しています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		理事長が子ども・子育て会議の委員、管理者が子ども部会の委員になっています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		基本家族通園を行っており、活動終了後保護者と振り返りを行っています。
	保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	
32		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行い、書類もお渡ししています。
33		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者が自由に見れる場所にガイドラインと評価表を掲示してあります。
34		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の振り返りや個別支援計画を通して、話す機会を設けています。希望がありましたら、随時面談を行っています。
35		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会は設立していませんが、分離の活動や懇談会を通して、保護者同士のコミュニケーションが図れるように心掛けています。
36		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
37		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等でお知らせしています。25日までにはアップできるよう心がけています。
38		個人情報の取扱いに十分注意している	○		
39		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
40		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事の際に地域の方の協力を得ています。今後も日頃からのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		掲示等を通して周知しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		隔月で避難訓練を行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に連絡表に記載してもらい、確認をしています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書の元、除去食の提供をしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		外傷記録簿や個人日誌に記載し、朝礼で伝達を行うことで再発防止に努めています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		必要に応じて関係機関と連携を図っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			基本、身体拘束は行っていません。